

## 2 鎌倉市の自然環境の概要

### 2.1 鎌倉市の緑の特徴

鎌倉市全域の植生の状況を示すと、図1のとおりです。鎌倉市は首都圏の人口過密地域に位置しており、住宅地や工場地などが全体の6割を占めていますが、周辺地域に比べれば緑に恵まれています。

鎌倉市は、海岸性の温暖な気候を反映して、自然のままの林としてはヤブコウジ-スダジイ群集等ができると考えられます(「自然林」といいます。p11参照)。しかし、農耕を中心とする人間の干渉を受け続けてきた鎌倉市には、自然のままの林はほとんどなく、人の手が入った林や草原に置き換わっています(「代償植生」といいます。p13参照)。

また、両側の山(林)と間の谷(水田や畑)の組み合わせからなる「<sup>やと</sup>谷戸」(p9参照)と呼ばれる環境が、かつては鎌倉市の身近な自然環境を形成していましたが、地形の改変や宅地化が進み、急激にその領域が消失しています。

一方、庭に植栽が施されている住宅地が多いことも鎌倉市の特徴であり、背後の丘陵の緑とともに落ち着いた都市景観を醸し出しています。

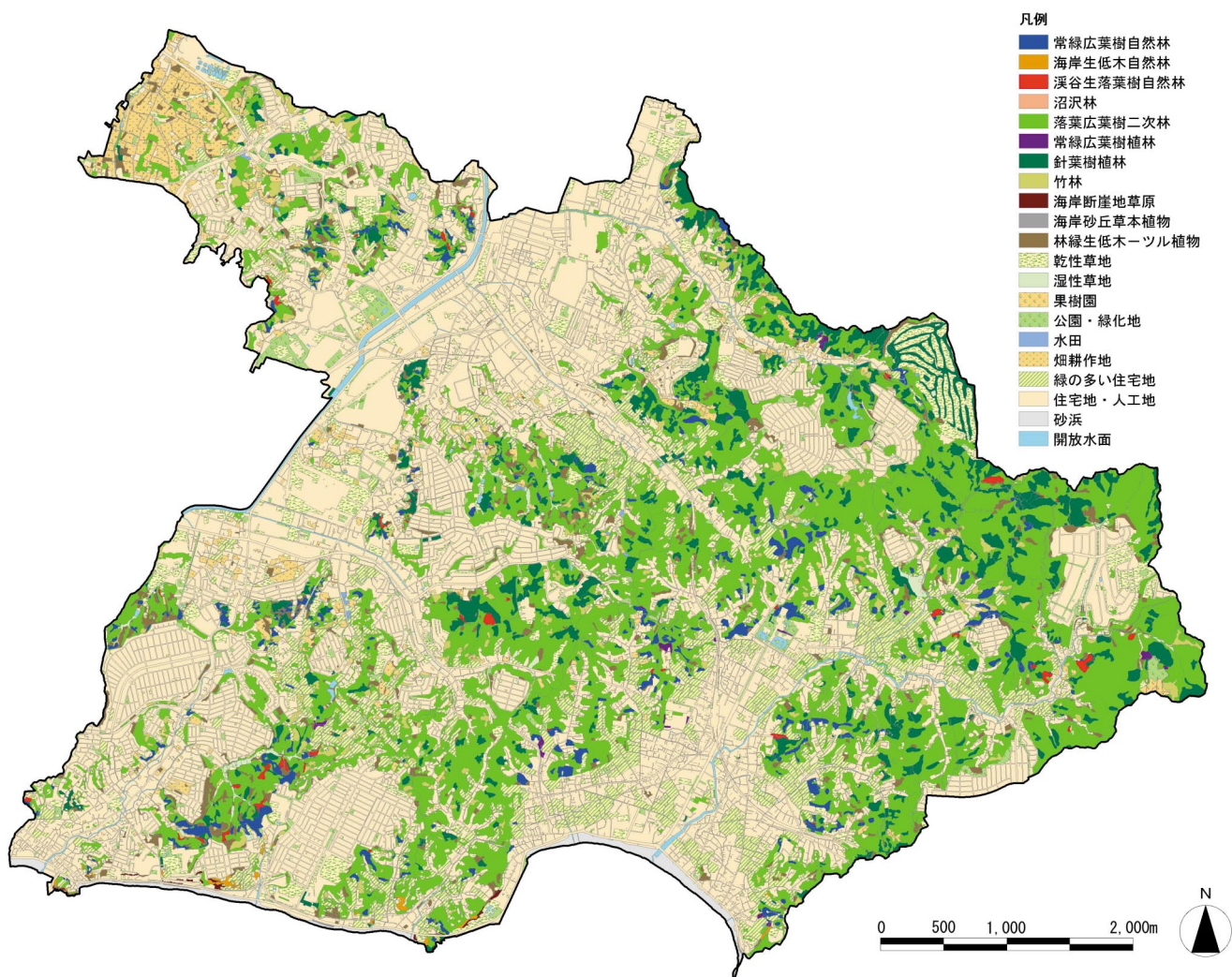


図1 鎌倉市の植生図(平成14年作成)

## 2.2 自然環境をとりまく課題

### ① 樹林地の減少(緑地の量的変化)

昭和30年から40年頃にかけて、樹林地が大規模開発により急激に減少しました(図2)。樹林地の減少傾向は市の東西で異なり、北鎌倉駅の東部では、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」(古都保存法)などにより、樹林地が比較的まとまって保全されていますが、大船駅を中心とした西部では減少が進んでいます。

樹林地に限らず農地も、同時期に宅地化のため減少しました。このような緑地の急激な減少は近年収まりを見せていますが、小規模な開発や谷戸沿いの宅地化は依然として進み、緑地は徐々に減少を続けています。

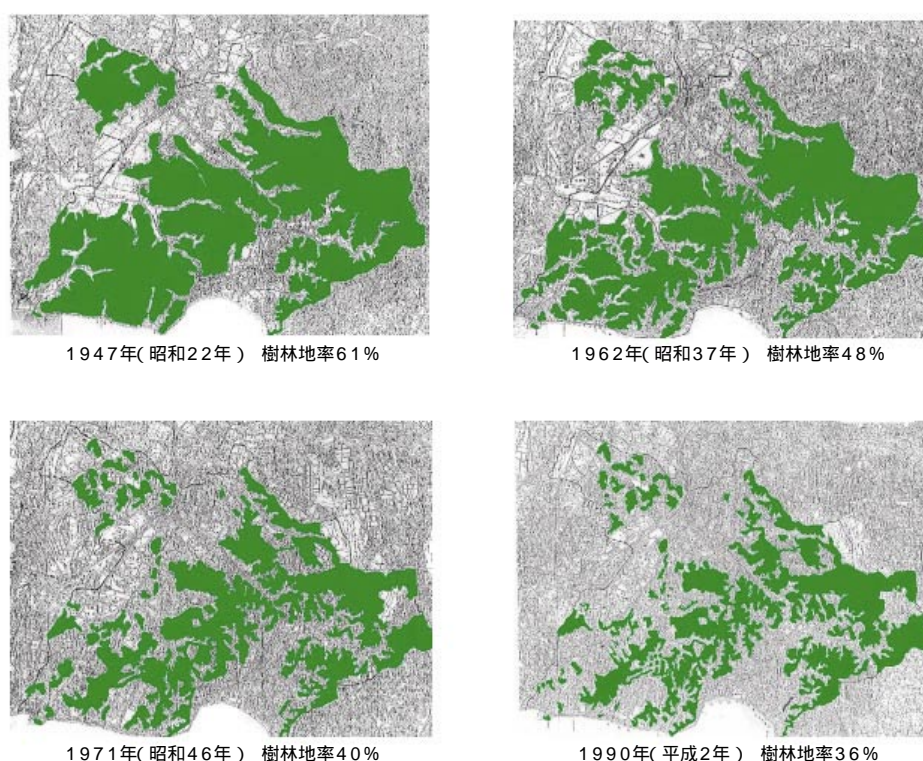


図2 樹林地の変遷図

### ② 農林業の衰退と緑地の変化(緑地の質的变化)

鎌倉市の自然は、長い年月の間、人々が生活のために林や草地を利用してきた結果できた二次的な自然です。こうしてできた自然を里山といひます。昭和30年頃までは、燃料や材木として木を、また堆肥として落ち葉を使うため、人々は林に入り、間伐や下草刈りなどの里山の管理を行っていました。適切な管理が施された林は林床が明るく、さまざまな植物や動物が生息しています。しかし管理されなくなった林では林床が藪になってしまい、植物の種類が減少するので、動物も少なくなってしまいます。

また、水田や畑が耕作されなくなると、田畑をすみかにしている生物が少なくなってしまいます。

昔からほとんど人が入ったことのない自然と違って、里山の色々な動植物が生きていけるようにするには、林や草地に適切な管理を施すことがとても大切なのですが、人々の生活の仕方が変わってしまった今、どのような方法で色々な動植物が生きていけるようにするかということは、日本全国で問題になっています。鎌倉市も例外ではありません。

### ③ 動物生息空間の減少

動物は大型の種ほど広い生息地を必要とします。鎌倉市の現状は、広い緑地が減りつつあり、広い生息地を必要とする動物にとって生息しにくい環境になってきているといえます。

狭い緑地は、それ相当の動物が生息するばかりでなく、移動性の大きい動物が他に移動する際の中継緑地として機能します。しかし、緑地の分断化が著しく進み、小さい緑地が孤立してしまうと、緑地間の移動が難しくなり、その緑地の生物生息空間としての価値は急激に下がります。

大きい緑地だけを守るのではなく、緑地の連続性の観点から小さい緑地を守ることも大切なことなのです。

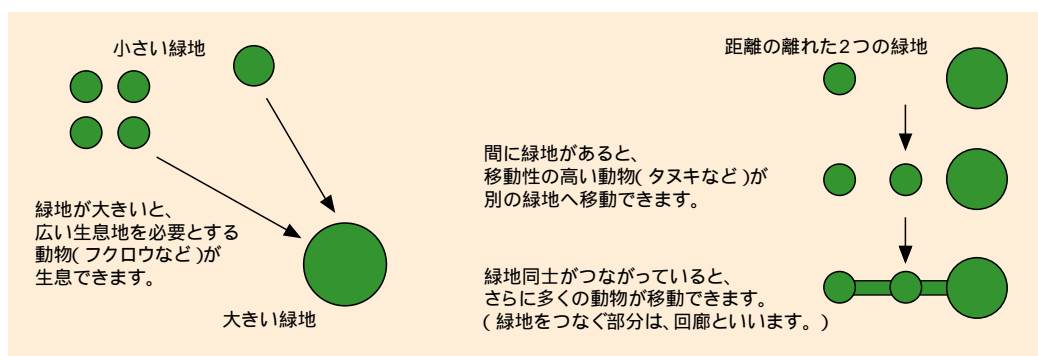


図3 緑地配置の考え方

### ④ 外来種の侵入

元々その地域に自然に生息する種を在来種といいます。これに対して移入された種のことを外来種といいます。外来種が野生化し定着した結果、本来の生態系に何らかの影響を及ぼすことは「外来種問題」(p16参照)として捉えられています。鎌倉市でも、台湾リスやアライグマの増加、人為的に池沼に放されたミシシッピーアカミガメ(ミドリガメ)やオオクチバス(ブラックバス)、植物ではセイトカアワダチソウの繁茂などが問題になっています。キジの仲間のコジュケイも鎌倉市には元々いなかった種です。アメリカザリガニ、ウシガエルは鎌倉が発祥地とされている外来種です。

外来種の定着は、程度の差はあるものの、在来種に何らかの影響を与えています。既に侵入した外来種に関しては、在来種に与える影響を極力小さくするよう対策を講じるとともに、新しい外来種の侵入を防止することが必要です。

④ 帰化種という言葉もよく使われますが、帰化種は外来種のうち、その地域に定着した種に関して用いられます。



台湾リス



コジュケイ